

発行所
石川県保険医協会
 〒920-0902 金沢市尾張町1丁目9番11号
 尾張町レジデンス2F
 電話 (076) 222-5373 番
 FAX (076) 231-5156 番
 発行人 高松弘明
 印刷所 ソノダ印刷株式会社
 購読料 1年間5,000円(〒共)
 (※本紙の購読料は会費に含まれます)

石川保険医新聞

保険医協会3大共済制度
休業保障
ただ今募集中
 1999年度募集期間/4月1日~5月25日まで
 ー詳しくは案内チラシを
 ごらんくださいー



開会あいさつに立つ高松弘明会長



新理事の提案をする
大矢基祐副会長



活動報告および活動方針の
提案をする安藤良一副会長



総会アピールを提案する
勝木育夫副会長



決算報告および予算を
提案する西田直巳理事



議長に選任された
江守道子氏(金沢市・歯科)



創立以来の会員を代表して、
表彰を受ける平松昌司顧問



司会を務めた小川滋彦理事



安藤良一副会長



小森 貴理事

10年勤続役員表彰

新しい技術を発明し、使
 いこなすのは若者が多い。
 新生テクノロジーに挑戦す
 る若者たちに、人類の未来
 が任されているのである。

第25回定期総会
**地域住民とともに
 医療と福祉の前進を**
 ー一九九九年度がスタートー

保険医協会創立二十五周年の節目である今年、定例会員数は九百人を超え、年間活動予算は一億円に届こうとしている。業務が飛躍的に増え、恒例の記念講演は午後五時から、栃木県立衛生福祉大学校講師でグー・ハウス代表の柴田浩美氏が、「口腔ケアの理論と実際」と題して行われ、約百人の参加者の好評を博しました。

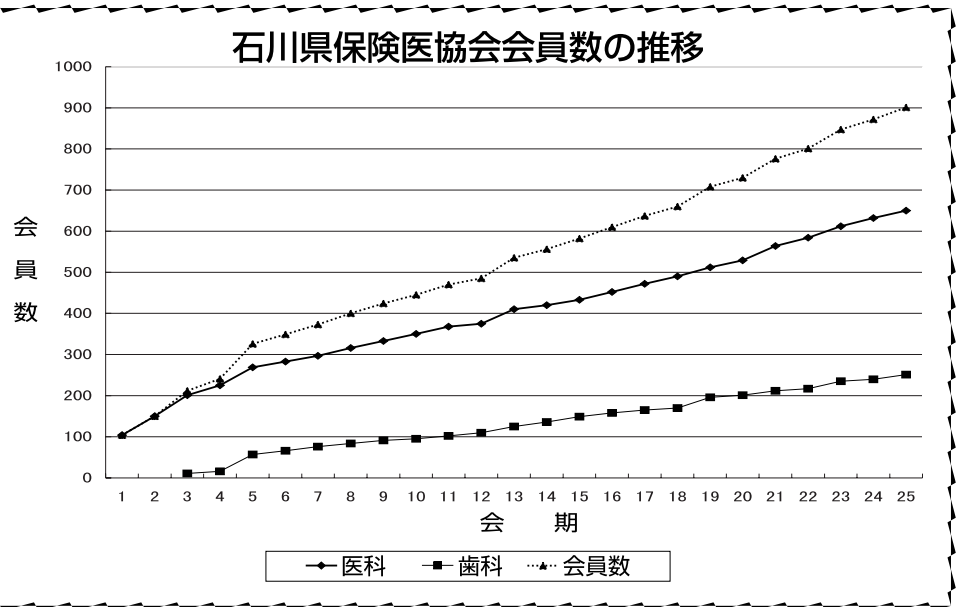
(一、三面に関連記事)
 午後七時半から、第二十五回定期総会が小川滋彦理事の司会で始まりました。開会にあたって高松弘明会長は、「協会会員数は九百人を超え、年間活動予算は一億円に届こうとしている。業務が飛躍的に増え、恒例の記念講演は午後五時から、栃木県立衛生福祉大学校講師でグー・ハウス代表の柴田浩美氏が、「口腔ケアの理論と実際」と題して行われ、約百人の参加者の好評を博しました。

続いて、議長に江守道子氏(金沢市・歯科)を選び、一九九八年度活動報告、

一九九九年度活動方針案と議事進行の中で、四人の参加者から、「学術・保険」と医療福祉部は合同部会を持つ活動を実施しよう、「FAXやEメールを利用して地域部員活動を掘り起こそう」「口腔ケア、摂食嚥下障害について医科歯科合同の取り組みを追求しよう」「病診連携がさらに進むよう、中小病院との

「医療抜本改革に反対し、改善運動を推進する。医学の研鑽に励み、地域住民との交流を深める。国民生活と人権を保障する政策を要望する。(要旨)」との総会アピールを満場一致で可決して、全議事を終了しました。

なおこの後、協会創立以来の会員五十七人と十年勤続役員二人の表彰が行われました。



医心凡語

人の胎児の肺細胞は、培養し続けると五十回ほどで細胞分裂を停止する。これはDNAの端にキャップのように付いているテロメアが減ってしまったからで、癌細胞では、テロメアは細胞分裂にかかわらず減少しない。したがって癌細胞のテロメアを有有限にすれば癌は治癒する。このテロメアを増やす酵素「テロメラーゼ」の研究で、金大産婦人科のグループがアメリカ癌研究会の奨励賞を受けた。そしてグループの一人、京医師はシカゴのノースウエスタン大学で一時間の講演をした。目に見えるDNAの研究とは、一体どんなものだろうか。古い人間には想像もできない。昔、戦国時代に「鉄砲」という新しいテクノロジーをいち早く利用した織田信長は、騎馬戦の得意な武田軍団を破った。第二次大戦では、日本は原爆によって負けた。このように社会は人間の意思によって変わる。その質的に変化する。つまり価値の基準が変わる。かつて「汚い水」として嫌われていた石油が、テクノロジーによって世界の「富」の中心になったように、新しい価値観が人々を支配する。

第25回定期総会記念講演 口腔ケアの理論と実際

人間性に触れる、口腔ケア

小島 登 (内灘町・歯科)



講師の柴田浩美氏(ゲーハウス代表)

三月六日(土)午後五時から七時まで、金沢都ホテルにおいて、第二十五回定期総会記念講演が開かれた。

テーマは、「口腔ケアの理論と実際」で、講師には、栃木県立衛生福祉大学校講師でゲー・ハウス代表の柴田浩美先生をお招きした。

会場には、週末の疲れにから七時まで、金沢都ホテル、看護婦、歯科衛生士、ルにおいて、第二十五回定期総会記念講演が開かれた。約百人が集まった。先生の話を聞き、メモをとりながら熱心に話に聞き入り、真剣な空気が流れていた。

「口腔ケア」とは何だろうか。口腔をケアすることだろうか。今まで歯が痛いなど食べられない。そうすると食べる意欲も減退し、A DLも低下する。そして、起きる意欲もなくなり、さらに痴呆がひどくなる。口腔の状態や問題からダメージを理解し、軽減する関わりを「口腔ケア」と言う。

口腔の対応のみではない。原因が口であれば、それはすべて「口腔ケア」として対応しなければならぬ。心理的な対応も含まれてくる。「何も食べたくない」という場合も「口腔ケア」

解決することと考えられてきた。もう少し進んで、そのならないための予防までして来た。疾患を対象とした話に聞き、メモをとりながら熱心に話に聞き入り、真剣な空気が流れていた。

柴田先生によると「口腔ケア」とは口腔のケアを意味するものだ。歯が痛いから食べられない。そうすると食べる意欲も減退し、A DLも低下する。そして、起きる意欲もなくなり、さらに痴呆がひどくなる。口腔の状態や問題からダメージを理解し、軽減する関わりを「口腔ケア」と言う。

口腔の対応のみではない。原因が口であれば、それはすべて「口腔ケア」として対応しなければならぬ。心理的な対応も含まれてくる。「何も食べたくない」という場合も「口腔ケア」

「口腔ケア」は、コミュニケーションに支えられて生まれてくる。食事のあとに食べ残す。若い人の汚れとは違う。食べ物そのものが残っている。綺麗にしてあげることだけが「口腔ケア」ではない。どこに問題があるのか。ニーズを発見し、ケアプランを立てる。綺麗にする能力を身につけることが目的となる。

「口腔ケア」は、コミュニケーションに支えられて生まれてくる。食事のあとに食べ残す。若い人の汚れとは違う。食べ物そのものが残っている。綺麗にしてあげることだけが「口腔ケア」ではない。どこに問題があるのか。ニーズを発見し、ケアプランを立てる。綺麗にする能力を身につけることが目的となる。

持論

介護保険の実施まであと一年となりました。厚生省は三月末に施設整備や人員基準、介護サービスを提供する事業所の運営基準などを盛り込んだ政省令を公布しました。市町村では九月議会で保険料の徴収・減免などを定めた条例を策定する予定です。さらに十月からは給付申請の受付と要介護認定の審査が始まります。

介護保険

実施まであと二年

後退許さぬ!

現行福祉制度の水準

介護保険の具体的な内容が明らかになるにつれて、問題点が噴出し、介護保険の充実・改善を求める要求が広がっています。保険医協会でも三月二十六日、「介護保険制度に対する要望書」を県介護保険準備室及び県下全市町村の介護保険担当課

に提出しました。要望書の要点は、①口腔歯科領域の適切な評価を求める②全ての市町村に苦情処理と相談窓口を設けること③公平な要介護認定ができる体制づくり④保険料・利用料は所

考える石川のつどいが開いたシンポジウムで金沢市の担当者は「制度を見直す時には介護保険の導入というのには非常にいい機会と思っています」と、市の単独事業である敬老福祉金の廃

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

今年度は国連が定めた国際高齢者年でもあり、高齢者の人権保障を確立するために、国と自治体に対し現行の福祉水準を守り、発展させることと、介護保険の具体的改善を迫る運動が、いま、一層重要になっています。

この講演は、すべての臨床医(とくに内科医)が聴いておくべき内容であった。患者と接する時に患者の生活者としての姿に思いを馳せるべき、という教訓と二重写しに感じるところがあった。

「すべての臨床医が聴いておくべき」とする理由は、このような、口腔ケアを全人的に捉えた演者の姿勢が、臨床的、なだけ再会をお約束した。

口腔ケア講演会を聞いて 何と食べさせてあげたい そのプロ精神が気持ち良い

小川 滋彦(金沢市・内科)

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

3月度理事会点描
しんどそうだが
楽しみな新年度
(3月16日・12人出席)

一九九九年第一回目 課題については、いくつもの理事会は、長期欠席中 取り組まねばならないの理事以外、全員が出席 ようだ。そのために、新しい開かれた。

新しい理事を迎えて、若い世代の活発な提案と活動を期待したい。

来年度からの介護保険導入にともなう、種々の不十分な点や矛盾点が露呈しだし、また一方では、はつきりしないが診療報酬体系の見直しや参照価格制度など、本年度は目を離せない課題が多く大変だ。

理事会も一人一課題にとどまらず、関連のある動を具体化することにな

たにテーマごとに責任者と担当役員を設けて、活動

今年度の新たな取り組みもいくつか提案され、しんどそうであるが、楽しみな一年となりそうである。

(井沢 記)

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

「介護保険との整合性を持たせる」との理由で、県単独事業の介護慰労金(月額九千円)の見直しも検討中とのことでした。そもそも介護保険は、深刻な家族介護の現状を解決するために創られたものです。現行の保健・医療・福祉の自治体事業に新たに介護保険の給付サービス

口腔ケア講演会を聞いて

触れることの大切さ あったかさ……で

片田 ルミ子 (言語聴覚士)

柴田先生の講演に参加させていただきありがとうございます。日々の体験を具体的に話していただきました。院内での防

私は昨年、十一年近くの病院職から離れて、現在フリーの言語聴覚士をしています。

個人、施設への訪問が主体ですが、成人の方であれば脳卒中などの後遺症による失語症、構音障害、摂食嚥下障害、そして痴呆、子どもさんであれば発達遅れ、発音の問題、育児の問題などの指導に当たらせていただいています。

摂食嚥下障害の分野は、石川県の医療の中でもメジャーではなく、以前勤務していた病院でも当初は何のこと?といった具合でしたが、三年前によくやく医師、看護師ら巻き込んでのチーム・アプローチを作ることでできました。

短期入院中に何とか食べさせてほしいと依頼もあり、サイレント・アスピレーションの方や、意識障害、痴呆と県外の方もよくおられました。

完全食事へ、お楽しみ程度へ、食事内容のレベルアップなど様々でしたが、退院後、自宅や施設に戻られ

んがいます。コミュニケーションを持たず、食事もボテツとした食事を食べさせてもらっています。アプローチを初めてから表情が出てきました。あつかんべー、口をとがらす、うなずく、全く何の表現もしなかった方が四回ほどで変化してきました。水分もむせるからと言って、思いつきとろみをつけて食べさせられていました。体位と量と時間を考慮すると飲めるので

食べることは人間の本能的な活動で、口を触ってあげることで意識が口腔内に向いてきて、なんだか分かんなくても、口の中に入れると口を動かし、ゴクツと行く場合もある。そこでむせたとしても、咳をすることで咽頭に貯留したものも一緒に吐き出し、咽頭、喉頭などの筋も活動し、声も出る。時折であればいい練習の機会だとも考えています。

意識障害の重い方や食事を認知できない方に、食べ物を入れる直接的なアプローチは難しいですが、顔面、口腔内をマッサージ、触れながら声をかけてあげることで、その方を眠りからさませている感じがします。触れることの大切さ、あったかさ……。

よく介護者が「もう痴呆なんだから、分かんないからもうダメですよ」と言います。しかし、現在の反応を維持させることがまず大事! 時折見せるニヤツとする顔、それもその方の表現、表情の変化は嬉しいでしょう。それも大事なコミュニケーションです。よって伝ええます。

現在、施設で見ている九十三歳の痴呆のおばあちゃん

柴田先生のお話は理論的で具体的に軽快で、とても元氣の出るお話でした。本

当によかったです。私も多くの方に摂食嚥下障害という障害を知っていただき「じゃあ、うちのジーちゃんどうしたらいいんけ?」という行動につながって頂けるよう啓発活動に努めたい

と思います。

と思います。

第25回定期総会記念講演

「口腔ケア講演会」アンケートのまとめ

記念講演「口腔ケアの理論と実際」の感想

- 従来は清潔にするように教えられていた菌が、必要以上に清潔にする必要がない、調和がとれた状態が重要と言われ、驚いた。しかし、その調和がとれた状態は、どのように見分ければよいのだろうか。(歯科医師・40歳台・男性)
○ 患者の全体像をみてケアする点では、口腔ケア一つとっても大切な視点と考えます。病院でなかなか歯科治療できなかったのですが、数年前より往診してもらえようになったのですが、おまかせ状態になっていると思えました。歯科、本人、病院の関係をとの必要性を感じました。(看護婦・30歳台・女性)
○ 高齢者の義歯の汚れは汚れではなく食べかすです、と言われたのがとても心に残っています。きれいにする能力がないから汚れではないという言葉に、私の今までの患者さんに対する押し付けのような感情がものすごく出てきました。(歯科衛生士・30歳台・女性)
○ 義歯の菌磨きについて、とても参考になりました。口腔ケア=全身状態のチェックの大切さ、とてもよい勉強をさせていただき今後在宅で活かしていきたいと思っています。ありがとうございます。(保健婦・60歳台・女性)
○ とてもためになりました。ありがとうございました。(歯科衛生士・20歳台・女性)
○ 口腔ケアとは、口の中のケアをすることだけではなく、食べる前からの状態を確認することの必要性を感じました。口腔ケアと音楽の関係についての話、とても参考になりました。今現場で、脳卒中の患者でどうしても口腔ケアの困難な人がいるのですが、食事は何とか食べるけれど口腔ケアをとても嫌がり歯ブラシをかんて離さない、入れ歯でなく自分の歯のためどうしたら良いものかと考えています。(介護福祉士・30歳台・女性)
○ 口腔ケアが、単なる口腔の清潔ではなく、疾患のみならず人間性も重要なポイントということがよく理解できました。患者さんのケアの入り口はまず口腔ケアに関することから出発すれば、患者さんのニーズも発見できることを知りました。口腔ケアに対する考え方が、少し変わりました。(看護婦・40歳台・女性)
○ 口腔ケアという範囲の広さと難しさ、意味深いものであると実感しました。現在、私も口腔ケアで病棟を担当していますが、口腔内のブラッシングや清拭のみならず、摂食と嚥下、リハビリといった口腔内の機能についても勉強知識を身につけたいと思っています。今日の講演を、今後の口腔ケアに生かせればと思います。ありがとうございました。(歯科衛生士・20歳台・女性)

- 私はリウマチ病棟に勤務しています。障害があり、口腔ケアは日常的に行っています。義歯の洗浄をしますが、洗った後、口に入れる方と水(消毒液)につけている人がいます。これはその人のニーズに添った介助ですが、歯が入っていないと顎関節の問題もあり入れる方を勧めています。日常的に口腔内ケアを行っていて、スッキリする食前のケアは「食べるぞ」という意識をもつことにつながるようです。起床後ケアが遅れた時、「口もうがいせんで、ご飯食べれん」ということもありました。今日理論を聞き、人の生きることの大切な部分であることが理解できました。今後も意識して患者さんと接したいと思っています。(看護婦・40歳台・女性)
○ 口腔はその人の人間性のあらわれであるという見逃されやすいことを指摘され、非常によかったです。(医師・60歳台・男性)
○ 口腔内をきれいにすることだけが口腔ケアではないということが、よく理解できました。もっと具体的なリハビリを知りたいです。(歯科衛生士・40歳台・女性)
○ 仕事上、口腔ケアに関する実践が多く、当たり前のように接していた口腔ケアの内容の幅の広さを実感しました。個々の生活環境や人間性を尊重しアプローチすることが大切であることを学びました。(看護婦・40歳台・女性)
○ 内科的な疾患へのアプローチにも応用できるような含蓄の深いお話でした。(内科医師・30歳台・男性)
○ いろいろと参考になり、ありがとうございました。ただ、現場の方も多かったので、もう少し実践があればと思いました。(歯科医師・50歳台・女性)
○ 広い立場からの話を聞いてよかったです。(歯科医師・50歳台・男性)
○ 今まで口腔ケアと聞けば口腔内の汚れをとるものと簡単に考えていましたが、今日の講演を聞いて、奥深く人間の基本ではないかと思いました。実際、口は、食事する、話をする、呼吸をする、生きるために大切な機能を持っています。仕事上、高齢者とかかわることが多いですが、口腔内の汚れをとるだけではなく、回復能力や意識のバランスを保つ調節をすることが大切であることがわかりました。(看護婦・30歳台・女性)
○ 理論に集中、実際の具体的なものがやはり知りたかった。でも、理論を語りかけた講師の考えは、よく理解できた。(看護婦・40歳台・女性)

「口腔ケア」についてのご意見

- 実践的なもの(How to的なもの)がもう少し欲しかった。(歯科医師・40歳台・男性)

- 食べるをテーマで看護研究集会をしたこともありました。看護婦だけでなく、医、歯、薬、リハその他も含めてのケアをしていく必要があると思っていました。(看護婦・20歳台・女性)
○ 菌や義歯の汚れ、食べかすをとりのぞいて、きれいにブラークコントロールする仕事だけではなく、一人一人の好きなもの、好きなこと、その人の生活すべてが口腔ケアにつながるの、これからやらなくてはいけない仕事がたくさんあるので、やる気でいっぱいになりました。ありがとうございました。(歯科衛生士・30歳台・女性)
○ 以前からの問題を把握していくことの必要性を感じました。(介護福祉士・30歳台・女性)
○ 人間の権利、人間性を守るために大切なケアだと思います。(看護婦・40歳台・女性)
○ 脳卒中で寝たきりで失語もある患者さんの口腔ケアで、いつも困難を感じることがあります。ガーゼ(消毒液)で口腔内の痰や乾燥した痰を拭き取る時、ギュッと口を閉じたり口を開けても菌肉でギュッと手をかむのですが、何か拒否されているのでしょうか? どうすればケアできやすいですか?(看護婦・40歳台・女性)
○ 口の中のみならず目を奪われず、生活の背景、全身の疾患や状態と全体的に目を向けることが大切だと感じました。(歯科衛生士・40歳台・女性)
○ 全く嚥下のできない人で、「Sham feeding」だけでも意義のあることかも…と思いました。(内科医師・30歳台・男性)
○ 私たち歯科医は、もう少し国民に口腔の重要性をアピールしていく必要があると思います。(歯科医師・50歳台・女性)
○ 症例なり実際の対処の方法を聞きたかった。(歯科医師・50歳台・男性)
○ 求めている人、求められる場合について考えが深まった。口腔ケアの限界はないのか?(看護婦・40歳台・女性)

今後、保険医協会に望む企画

- 患者・家族に対しての応対に関するもの(インフォームドコンセントを含む)。(看護婦・30歳台・女性)
○ 食のあり方と誤嚥についての企画等について。(介護福祉士・30歳台・女性)
○ 会場が小さいのがよかった。話が聞きやすい、質問も出やすい。こんなムードの中で褥創や医療従事者の腰痛対策(トランスファーの手法も含んで)等を希望します。(看護婦・40歳台・女性)
○ どのように口腔ケアを行っているのか(口腔ケアの仕方、リハビリも含めて)実際に例をあげて指導して欲しい。(歯科衛生士・20歳台・女性)
○ 違った職種からの摂食、嚥下の指導を聞いてみたいです。例として、ST、OT、PTさん達。(歯科衛生士・40歳台・女性)
○ 介護保険制度について勉強してみたいです。(看護婦・30歳台・女性)
○ 心電図の読み方。(看護婦・40歳台・女性)

石川県保険医協会理事会

— どうぞよろしくお願ひいたします —

任期

1999年3月6日から
2001年定期総会まで



会長 長松 弘明
(金沢市・内科)



副会長 安藤 良一
(金沢市・内科)



理事 大平 政樹
(金沢市・外科)



理事 申 東奎
(金沢市・外科)



副会長 大矢 甚祐
(金沢市・歯科)



理事 小川 滋彦
(金沢市・内科)



理事 西田 直巳
(金沢市・小児科)



副会長 勝木 育夫
(小松市・耳鼻咽喉科)



理事 喜多 徹
(野々市町・内科)



理事 服部 真
(金沢市・内科)



理事 井沢 宏夫
(金沢市・内科)



理事 近藤 邦夫
(金沢市・内科)



理事 平田 米里
(野々市町・歯科)



理事 大平 三四郎
(金沢市・歯科)



理事 柴山 真介
(金沢市・内科)



事務局長 神田 順一



二月中旬、高松会長より突然お電話があり、「保険医協会の理事になつて一緒に仕事をしませんか」という私にはもつたないようなお話を頂きました。

一九九五年に開業して以来、毎年のように保険点数の改定があり、その都度、保険医協会主催の説明会へ出席させていた頂きました。また、新規開業医懇談会でも指導対

策や増患対策、経営・税務などいろいろと懇切丁寧にご指導いただき、理事の先生方をはじめ協会の方々には大変お世話になりました。

現理事の情熱に習い 微力ながら全力で

理事 柴山 真介

しかし、私のような経験の浅い開業間もない若輩者が、このような重責をお引き受けしてよいも

新理事紹介



疫学、公衆衛生学、産業医学を学びました。現在、保健・医療・福祉のみならず、教育や雇用などを含む日本社会の在り方が激動しつつあ

市民と共に考え コーディネーターとして

理事 服部 真

り、世界で最も優れた医療保険制度の一つであった日本の健康保険制度や保険医の在り方も大きな変化を余儀なくされてい

県・市町村に二つの要望書

マル福の薬剤一部負担免除と 介護保険の問題点(提言)

事務局 工藤 浩司

石川県保険医協会では、七月一日から高齢者の薬剤一部負担が免除されるにあたり、石川県独自の六十九歳高齢者に対する窓口一部負担助成制度(いわゆるマル福)に対しても同様に薬剤一部負担を免除するよう、石川県知事宛てに緊急要望書を提出した。

「要望書」の概要は次のとおり。

一九九九年度政府予算案では、「老人医療」(マル老)について、高齢者からは薬剤一部負担を直接徴収せず、かわって国が医療機関

に支給することによって薬剤一部負担金の解消を図る「臨時特例措置」が実施されることになっていきます。石川県の老人医療費助成制度は、これまでもマル老の一部負担金との「整合性」を図るとい考え方で負担金を徴収することになっており、マル老にあわせて本病の重症化を招く事態に診療の現場で多くの医療担当者が心を痛めています。このうしたなかで、多くの医療担当者は「老人医療」の薬剤一部負担金の解消に伴って、マル福患者の薬剤一部負担金も当然解消されるものと期待しています。

つきましては、国が「臨時特例措置」をとり、高齢者の薬剤一部負担を解消するのに伴い、石川県老人医療費助成制度についても、薬剤一部負担金を助成対象として患者負担の軽減を図っていただきますよう強く要望します。

三月十五日、高松会長、神田事務局長、工藤の三人で、県の厚生部長寿社会課長である榎木氏に要望書を託すとともに要望の趣旨説明を兼ねた懇談を行った。要望趣旨に関する説明に対して、榎木課長の回答は、「老人保健法改正に伴う措

第10回全国保険医写真展

作品募集

□開催日時/1999年7月6日(火)~7月11日(日)

□開催会場/東京・JCIフォトサロン・JCIクラブ25

□展示企画/○テーマ自由。カラー、モノクロは問いません。○プリントは半切のみ。余白、余黒はつけたまま。

□出展数/お一人1点のみ

□出展料/6,500円

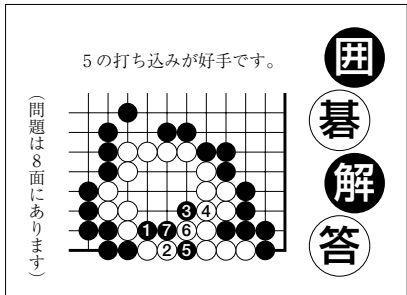
□応募資格/保険医協会会員とその家族、従業員の方

□締め切り/5月24日(月)

□作品送付先/全国保険医団体連合会・文化部

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館

□お問い合わせ・お申し込み/保険医協会076(222)5373まで



置ならば、当然県単事業についても検討しなければならぬが、今回はあくまで予算措置による対応という「特例」なので、今のところマル老患者に対する薬剤一部負担免除は考えていない」との消極的なものであった。

この回答に対し高松会長は、高齢者の著しい受診抑制の現状を訴え、要望書の趣旨について理解を求めた。また、関連して、マル老患者に対する薬剤一部負担を解消する場合の費用について質問したところ、試算は可能であるとの回答を受け、是非とも補正予算を組んでいただけるよう重ねて要望し懇談を終えた。

また、三月二十六日には、介護保険制度に対する要望書を県内各市町村宛てに提出し、県長寿社会課長と金沢市の佐藤介護保険準備室長との趣旨説明を兼ねた懇談をもった。

なお、上述した二つの要望書については、県内各市町村、県医師会および十一の地区医師会、ならびに石川県議選の立候補者全員に対しても送付しており、要望趣旨に対する理解を求め

対する相談や助言・指導を行ったり、一般住民に対する口腔ケアの重要性についての啓蒙活動に協力を惜しまるものではないことは当然であります。

(全ての市町村に苦情処理と相談窓口を設けること)

2. 要介護認定や保険料等の不服申し立ては県介護保険審査会、介護サービスに関する苦情は県国保連合会、そして一部の市町村では住民のための苦情相談窓口などが設けられるようです。さらにすすんで自治体の責任において、介護保険に対する住民からの要望や苦情、行政やサービス事業者に対する具体的な注文などを受け付ける苦情処理と相談窓口を県内全ての市町村に設置されることを強く要望します。

このような苦情処理の手続きも含めた介護保険制度の内容と利用法について、住民に十分な理解を得られるよう周知することを要望します。

(公平な要介護認定ができる体制づくり)

3. 高齢者の家族・生活環境など総合的に判断できるよう、国に対してコンピューターによる1次判定の根本的な見直しを求めるとともに、各市町村に対しては介護認定審査会の時間を十分とり、主治医の意見書を最大限重視した2次判定ができる体制の確立を要望します。

(保険料・利用料は所得に応じた減免制度を)

4. 介護保険の保険料は、ほとんどの市町村で当初試算された月2,500円を上回ると予想されています。さらに保険料の滞納者に対する厳しい制裁措置、きわめて限定された減免措置など、介護保険から排除されたり、利用できない人が続出する事態が危惧されています。また利用料の定率1割負担は過酷で、今までサービスを受けていた人が利用できなくなる恐れがあります。

自治体の裁量で、滞納者に対する制裁を回避する措置や所得に応じた保険料と利用料の減免制度を導入するなど、きめ細かな救済措置を検討していただくことを要望します。

以上。

1999年3月26日

石川県厚生部介護保険準備室 御中
県内各市町村介護保険担当課 御中

介護保険制度に対する要望書

石川県保険医協会
会長 高松 弘 明

私たち石川県保険医協会は、県下900人の医科歯科開業医を中心に構成する団体で、日夜県民の医療福祉の向上と会員の生活を守るために奮闘しています。介護保険に関しても学習会や提言、他団体との共催によるシンポジウムの開催などの運動を活発に展開しています。

さて、介護保険実施まで1年に迫り、医療団体として介護保険についていまままでに噴出した数々の問題点を整理し、少しでも良いものにするための具体的な提言をまとめることにしました。県および県内各市町村におかれましては、ぜひとも私たちの提言に耳を傾けていただきたいと思います。

記

(口腔歯科領域の適切な評価を求める)

1. 特に歯科医科一体で構成している医療団体として、介護保険における要介護認定調査やアセスメントにおいて、口腔に対するアプローチが少なく、はなはだ問題であると思います。対象者において、食べたり、飲み込んだりする楽しみに障害があるということは、QOL 確立の大きな障害となっていることを第一線医療に従事している歯科医師、医師は、切実なことで肌で感じています。介護保険におけるアセスメントをする場合、口腔領域の分野も適切に評価されるよう、国に対して要望するとともに、県内各市町村の現場に対しても強力な働きかけを要望します。もちろん口腔歯科領域の問題解決のために、私たち協会歯科会員がその専門的技量をもって、市町村担当職員に

新年号コンクール講評

前号でお知らせしましたとおり、今年度の日本機関紙協会主催の新年号コンクールで本紙は「取材記事賞」を受賞しました。審査委員会より講評が届きましたので、全文掲載します。(編集部)

- 【講評】 ●紙誌名 『石川保険医新聞』
 ●団体名 石川県保険医協会
 ●批評者 日本機関紙協会東京都本部 大淵俊之

20ページ建ての大型新年号です。非常に企画がしっかりとし、読者に何を訴えようとしているかが明確になっています。審査会の中でも評価は高いものでした。

「お訪ねします」や「栗野先生のぶらり石川」「石川県医事文化史跡めぐり」などの連載は、会員の医師の方が直接取材されている企画で大変すばらしい取り組みだと思います。全体によく紙面に仲間が登場しています。

さて、目玉は「介護保険」の4ページにわたる座談会です。テーマ設定や切り口は非常に良かったと思います。中見出しがもう少し細かく配置されていますと、もっと内容が分かりやすかったと思います。

「新規開業医は語る」などに登場している人々には、必ず「顔写真」を付けてください。ほかに取材した人たちの顔写真も掲載していいのではないのでしょうか。

これからもがんばってください。

本紙への投稿をお待ちします。

編集部では、読者からの投稿を随時お待ちしております。保健・医療・福祉、あるいは趣味や地域での取り組みなど、内容は問いません。字数は六百字程度でお願いします。

また、会員が主催する文化行事(コンサートや個展など)を紙面に紹介させていただきます。編集サイクルの都合で開催日までの掲載が間に合わない場合がありますので、事務局までお問い合わせ下さい。(編集部)

歯科学術講演会のご案内

歯科におけるヘルスカウンセリング

—患者の隠れたニーズを知る—

- 講師：宗像 恒次氏 (筑波大学教授)
- 開催日：5月16日(日)
- 開催時間：午前9時～午後1時
- 開催場所：都ホテル 5階 加賀の間 (JR金沢駅正面TEL076-261-2111)
- 参加対象：歯科医師、スタッフ、保健福祉関係者
- 参加費：会員……………1,000円、会員スタッフ…1,000円
非会員……………10,000円、非会員スタッフ5,000円
保健福祉関係者5,000円
- 申込み：次のいずれかの方法でお早めにお申込みください。
①別添の申込書に必要事項を記入の上、FAX送信
②必要事項を明記した電子メールを次のアドレス宛てに送信
③電話による申込み

石川県保険医協会

お申し込みは 〒920-0902 石川県金沢市尾張町1-9-11 尾張町レジデンス2階
電話：076(222)5373 FAX:076(231)5156
E-mail: ishikawa-hok@doc.net.or.jp



有川功ドクターの韓国訪問記 (24回シリーズ)

韓国事情見て歩き 第11話

韓定食プペとカマギ

則の決定など、一応、予定通りに創立総会が終了した。その後、夕食を一緒にとりましようということ、江南聖心病院近くのバイキング式(プペルビュッフェ)韓定食の食堂に案内された。

一九九七年の十一月までは、食事といえば大抵、韓国式レストランで飯台の脚が折れるほどの料理が一度に出て来て、皆で食べ散らかして、大量の食べ物を残すのが通例であった。そういう食べ方を美風とする韓国式食事マナーに内心、忸怩たるものを常に懐いてきていたので、バイキング式食堂の出現と急増には大賛成であった。もちろん一九九七年十二月に韓国の金融危機が突然に訪れ、MF体制に入ってから

は、一般庶民の実質的な収入の激減、医師と理学療法士も含めた大量の失業者の出現などの外圧があったのは確かとして、無駄のない合理的なプペすなわちバイキング方式レストランでの会食は好ましいものと思えた。私は常々、韓国で不思議に思うことがある。あれほど、外食の場で大量の食べ残しがあるのに、なぜ韓国ではカマギ(カラス)が少ないのかという疑問である。機会があることにいろいろな人に尋ねたが、明確な返答は得られなかった。

韓国通のある日本人は、食へ残しはすべて再利用して、後で来られたお客さんに提供しているの、残飯は比較的にならぬのだと言われる。確かに、私はボジヤンマチャ(幌馬車風屋台)で食べ残したスープ類を再び大鍋に入れたり、固形物を種類ごとに整理したりという現場を何度も見たことがある。私も食へ残しを再利用している可能性は高いと推測している。



バイキング式韓定食レストランにて(1998年4月25日) こちら向きの左側が私、その隣が大韓民国理学療法士協会会長：梁壬奎先生、対面の左側が学術顧問：金龍柱先生、その隣が大韓民国テーブ医療学会会長：金庸權先生、同学会事務局長：李在甲先生、その他学会関係者大勢。

さて、韓国ではカッチ(カササギ)を吉鳥(キルチヨ)としてとても喜ぶ。カッチは映画やドラマで状況が好転するような場面で暗示的にしばしば登場するし、韓国特有の明るい落葉樹の林や丘のここかしこに住んでいる身近な存在である。一方、カマギについては、韓国人は、日本人の感じている以上に不吉鳥(ブルキルチヨ)と感じている節がある。夕方、こちらにいられた韓国の先生方を兼六園や金沢城や卯辰山に案内している時にカマギが鳴いたり、飛んで来ると凄く怯えるのがモヤ?

石川県事文化史跡めぐり

<47>

医師山本与興の茶碗

多留 淳文 (日本医史学会評議員 金沢市・内科)



山本与興作「黒楽茶碗」
石川県立美術館蔵

今から四年前、このシリーズを始めたころ、一読者から「藩政期の医師で陶芸家に山本与興という人がいた」という情報を頂いた。まさに格好な話題と感謝したが、なしる実物を見ていないのを見たような嘘は書けな

い。ようやく今回、書いてみるようになった。山本与興(「よきよう」または「よこう」、一七五三〜一八一七)、諱(いみな)は美和、加賀藩の老臣村井氏のお抱え医師で九人扶持。若いときから茶道をたしなみ、茶号を宗節と称した。越中植生(現小矢部市植生)の太田竹亭(伝右衛門、柳溪、一七七四〜一八二五)に楽焼を学び、余技として陶芸を行った。作(北春千代氏)品は抹茶茶碗が多く、赤と黒があり、中でも富士黒茶碗は逸品中の逸品といわれる。

藩主前田治脩や齋廣の命により、茶器を献上した。与興は京都の楽家三代目の道入(のんこう、一五九九〜一六五九)の作風を慕い、「印ナキモノハ世人見テ導入ト誤認スルニ至レリト云フ」と加藤恒「加賀越中陶磁考草」(二八九五)にある。与興の創始した楽焼は、加賀楽焼と呼ばれ、

会員リーエッセイ

◆2◆

学問の結婚

北山 吉明 (金沢市・形成外科)

「おかげ八目」ということわざがあるように、その道の専門家よりも、素人の方が良い着眼点や発想を持つことがあります。

僕が声楽の世界に入ってすぐ感じたことは、発声の指導とは、なんと曖昧なことをもつともらしく教えるものなのかという呆れた驚きでした。

「首の付け根に息を吸って音を出す」「鎖骨のUのところでほじいて音を出す」など偉い先生の言うことだから、若い音大生はハイとうなずくしかないが、本当はチンプンカンプンのはずです。

声は声帯で作られますが、実際は目に見えないため、教師は勝手に作り上げた自分のイメージでそのメカニズムを生徒たちに理解させようとするので

す。だれも見たことのないことを個人の好き勝手なイメージで表現するのですから、正しいとか誤っているという問題もないし、ましてや議論の余地はありません。ある教師が白と言ったことを別の教師が黒と言っても「そう思うからそうだ」の一言で終わってしまいます。医学という科学に慣れ親しんだ僕にとって、こんな漫然とした学問があるものかと常に釈然としませんでした。

ところが、スポーツ医学を専門としていたこともあって、ある日ふと、歌もスポーツも同じ身体活動ではないかと思いついたのです。そこで発声学とスポーツの両方からお互いの身体活動を検討してみました。すると瞬発力、持久力、筋・神経調整力、姿勢保持のバイオメカニクス、呼吸機構、はてはメンタルトレーニングから栄養に至るまで、スポーツ医学から声楽に導入できるノウハウが続々出てきました。それはもう、ただただ驚くばかりでした。

そこで声楽専門家と二人で、発声における肉体的バイオメカニクスをだれもが理解できる表現で表すことを試みてきました。ついでにスポーツ医学に基づいた声楽トレーニング法の研究にも着手し始めたのです。

そんなある日、われわれの研究の一部を音楽大学

で特別講演する機会を得ました。講演後、昼食を共にしながら真剣に、しかも熱心に次々と質問を僕に浴びせかけたのは、何と声楽科の教授だったのです。質問の内容のほとんどが、歌唱時の体の動きに関するものでした。それらは、僕が発声理論の中で最も欠如しており、しかも最も重要であると常々考えていたものでしたので、僕は大変意を強くして、今も研究に励んでいる次第です。



保険医協会創立25周年記念音楽会

第3回ドクターズ・ファミリーコンサート

ドクターズ・ファミリーコンサートを今年も開催します。ただ今、コンサートの出演者を募集しております。楽しいコンサートを企画しておりますので、お気軽にご応募下さい。

■とき
1999年9月23日(木・祝)

■ところ
石川県女性センター1階ホール

- 応募部門 邦楽、洋楽、ポピュラー、Jazzなど、ジャンルは問いません。会員、家族、スタッフの参加をお待ちします。
- 曲 目 自由
- 参加費用 無料(楽器などの搬入搬出などの費用はすべて出演者のご負担とさせていただきます。)
- お申し込み・お問い合わせ 詳細については保険医協会事務局まで(076) 222-5373

出演者募集
のご案内

主催 石川県保険医協会

/produced by Yoshiaki Kitayama

会員名簿ができました

一九九九年四月一日現在の会員名簿ができました。会員の先生方にお送りいたします。万一、掲載事項に誤りがありましたら、保険医協会事務局までご一報くださいますよう、お願いいたします。

なお、会員名簿に次の誤りがありました。訂正いたします。

表紙の下…E-mailアドレスの最後のピリオドを削除
四十四頁…役員の任期を二〇〇一年定期総会までに変更

秋の一泊レクリエーションに代わり、日帰りグルメ・バスツアーを開催します

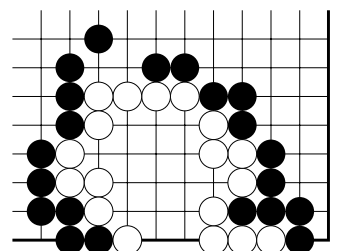
毎年開催してきました「秋のレクリエーション」は、参加者が一定数集まらなくなり、今年から開催しないことになりました。代わって、会員・家族を対象にした日帰りバスツアーを開催します。今年度計画は下記のとおり。詳細が確定しましたら、チラシなどで詳しくご案内いたします。

- 日 時/1999年8月29日(日) 金沢駅西口 午前7時ごろ集合 午後6時ごろ解散
- 行 程/縄文真脇温泉(真脇遺跡縄文館見学、真脇温泉入浴など)→昼食(能都町宇出津割烹「あたか」)→コスモアイル羽咋(3Dプラネタリウム・宇宙科学展示館見学)など
- 募集人員/42人
- 料 金/大人:17,000円、子ども:10,000円 ※幼児は食事がいらぬ場合は無料

囲碁

■出題者
七段 向井富治 (金沢市・内科)

白地は味の悪い姿です。手にして下さい。



(解答は5面にあります)